

水戸市行政評価委員会

(第3回)

令和元年10月29日(火)
午後1時
水戸市役所4階政策会議室

1 次第

- (1) 開会
- (2) 審議
- (3) 答申
- (4) 閉会

2 資料

- (1) 答申書

行 評 答 申 第 1 号
令和元年 10 月 29 日

水戸市長 高橋 靖 様

水戸市行政評価委員会
委員長 吉 田 勉

令和元年度行政評価について（答申）

令和元年9月25日付け行評諮問第1号により、当委員会に諮問のありましたこのことについて、別添令和元年度行政評価に係る答申書のとおり答申いたします。

令和元年度行政評価に係る答申書

令和元年10月
水戸市行政評価委員会

目 次

1	評価の経過	1
2	評価結果の総括	2
3	各事務事業に対する評価	4
4	評価を終えての意見	8
5	委員名簿	10

1 評価の経過

行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、令和元年9月25日に第1回の委員会を開催した。その際、水戸市では、令和2年度の中核市移行に伴い、毎会計年度、包括外部監査を実施する必要がある、行政評価と包括外部監査は、テーマ設定や外部有識者の関与という点において、制度上共通点があることから、本年度をもって、行政評価を休止し、新規評価を実施せず、継続評価のみを行う方針が示された。あわせて、「公の施設の利用状況」をテーマとした2年目評価2事務事業、「イベント事務事業」をテーマとした4年目評価3事務事業及び「公の施設の管理・運営に係る事務（直営施設）」をテーマとした7年目評価1事務事業の評価を行うことについて、高橋市長から諮問を受けた。

委員会は、事務事業を所管する各部推進会議が実施した1次評価（内部評価）に対して、外部からの客観的な視点を持って2次評価（外部評価）を行うという非常に重要な役割を担うものであるため、事務事業について、内容の十分な把握と慎重な審議を求められているものである。

評価案の作成に当たっては、担当課によって作成された1次評価（内部評価）の調書に基づき、担当課の考え方や事務事業の詳細な把握に努めたところである。

第2回の委員会は、10月10日に開催した。第2回の委員会では、昨年度の総合評価で「見直しの上で継続」とされた2年目評価2事務事業並びに「評価継続」とされた4年目評価3事務事業及び7年目評価1事務事業の評価を対象に、各部推進会議において設定した改善目標と、その目標に対する改善状況について、担当課から説明を受け、改善の内容や考え方の確認を行った上で、委員会としての結論を出した。

2 評価結果の総括

2年目評価は、昨年度の総合評価において、「見直しの上で継続」とされた2事務事業について、「評価終了（※1）」とした。

4年目評価は、昨年度の総合評価において、「評価継続」とされた3事務事業について、「評価終了」とした。

7年目評価は、昨年度の総合評価において、「評価継続」とされた1事務事業について、「継続管理（※2）」とした。

※1 評価終了・・・改善目標が達成され、改善状況が確認できたことから、評価終了とする。

※2 継続管理・・・改善目標が達成されないなど、改善状況が確認できないことから、継続して管理を行うものとする。なお、今年度で行政評価が休止となることを受け、「継続管理」の事業については、次年度も事務事業の担当課において指摘事項を踏まえた改善を行うこととし、あわせて、行政改革課でも、指摘事項を踏まえた管理を行う。

（1） 2年目評価

表1 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 青柳公園の利用状況	評価終了
2 障害者教養文化体育施設（水戸サン・アビリティーズ）の利用状況	評価終了

※評価終了に網掛けをしている。

2年目評価については、全ての事務事業において、改善が達成されたと評価できる。

青柳公園は、メインアリーナとサブアリーナについて正確な稼働実績の管理を開始したほか、利用者の拡大に向け、ホームページを新設し、利用

方法等の周知を強化したこと等の改善が認められたことから、今年度で評価終了とした。

障害者教養文化体育施設は、利用者ニーズを踏まえ、優先順位を定めた改修計画を策定するとともに、施設パンフレットをリニューアルし、今後、障害者施設等に設置するなど広報を強化すること等の改善が認められたことから、今年度で評価終了とした。

(2) 4年目評価

表2 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 農業祭(補助事業)	評価終了
2 商工祭(補助事業)	評価終了
3 水戸黄門まつり(補助事業)	評価終了

4年目評価については、全ての事務事業において、改善が達成されたと評価できる。

農業祭及び商工祭については、共通経費の費用負担の根拠を明確化することで改善が認められたことから、評価終了とした。

水戸黄門まつりについては、観客数の測定方法を見直したほか、新たな財源確保に取り組むとともに、PR活動の強化に取り組む等の改善が認められたことから、評価終了とした。

(3) 7年目評価

表3 評価の概要

事務事業名	行政評価委員会の評価 (2次評価)
1 斎場管理運営事務	継続管理

7年目評価の対象である斎場管理運営事務については、改善に向けた検討を開始しているものの、検討すべき課題も残っており、改善の余地も大きいと考えられることから、継続して管理することとした。

3 各事務事業に対する評価

各事務事業に対する評価については、以下のとおりである。

(1) 2年目評価

ア 青柳公園の利用状況

青柳公園は、昨年度の評価を受け、施設の周知の強化、稼働率の考え方の整理を改善目標として掲げているところである。

施設の周知の強化については、新たなホームページを作成し、施設の概要、利用方法、予約方法、料金等の周知を強化し、利用者の拡大に努めたほか、個人利用者数の増加を図るために、ツイッターで施設の利用について情報発信を行っている。

稼働率の考え方については、メインアリーナ及びサブアリーナに関して、より正確な稼働実績の管理に向けて、利用人数に基づく管理から競技コート面の稼働率の管理に変更し、稼働状況の把握を開始した。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

なお、今後は、引き続き、新たな稼働率の考え方に基づく利用状況の検証を行うとともに、SNSによる情報発信についても、更新頻度を上げることが望ましい。

イ 障害者教養文化体育施設の利用状況

障害者教養文化体育施設は、昨年度の評価を受け、利用者数の減少理由の検証、老朽化した施設の改修方針の策定、広報活動の強化を改善目標として掲げているところである。

利用者数の減少理由については、類似施設である総合運動公園体育館の再開（平成29年4月、空調設備等の大規模改修の完了）に伴い、利用者の一部が当該施設に流出したことが原因の一つと分析している。

老朽化した施設の改修方針については、利用者のニーズを踏まえ、優先順位を定めた改修計画を策定している。

広報活動については、施設パンフレットのリニューアルを行い、今後、障害のある方の利用につながるよう障害者施設に、また、地域内での目的外利用につながるよう近隣の公共施設にも設置していくこととしている。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

なお、利用者数の減少理由については、利用者アンケートにおいて、「駐車場が狭い」、「予約システムがなく一般の人は予約しにくい」等の意見があげられていることから、今後、他の要因についても検証を進めるとともに、稼働率が低い部屋については、利用料金の変更を検討することが望ましい。

(2) 4年目評価

ア 農業祭

農業祭は、昨年度の評価を受け、産業祭実行委員会における共通経費等の費用負担の根拠の明確化を改善目標として掲げているところである。

共通経費の費用負担の根拠については、共通経費を除いた産業祭決算額における商工祭、農業祭のそれぞれ占める割合に応じた額を負担することを決定している。これを受け、農業祭が負担する分担金については、会場設営費や広報宣伝費などの共通経費約180万円のうち、産業祭決算額に占める農業祭の割合（おおよそ3割）に相当する55万円となった。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

イ 商工祭

商工祭は、昨年度の評価を受け、産業祭実行委員会における共通経費等の費用負担の根拠の明確化を改善目標として掲げているところである。

共通経費の費用負担の根拠については、共通経費を除いた産業祭決算額における商工祭、農業祭のそれぞれ占める割合に応じた額を負担することを決定している。これを受け、商工祭が負担する分担金については、会場設営費や広報宣伝費などの共通経費約180万円のうち、農業祭が負担する55万円を控除した額（おおよそ7割）となった。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

ウ 水戸黄門まつり

水戸黄門まつりは、昨年度の評価を受け、客観的な観光客数の測定方法への見直し、補助金の費用対効果の検証方法の検討、周知活動の強化を改善目標として掲げているところである。

観客数の測定方法については、昨年度までの「イベント毎に目視による観客数の前年度との比較に基づく測定方法」から、本年度、「イベント毎に単位面積で計測した観客数に回転率を考慮して推計値を算出する測定方法」に見直している。その結果、前年度約91万人に対して、約21万人減の約70万人となったが（※）、測定方法の見直しにより、より正確な観客数の把握を行うことができている。

補助金の費用対効果の検証方法の検討については、イベント用品の一般販売を行うなど新たな財源確保に取り組んでいるほか、補助金のあり方についても見直しを進めることとしている。

周知活動の強化については、リニューアル告知チラシを市内全戸及び県内外の旅行会社92社へ配布したほか、各種メディアによるPRに加え、水戸大使である「和楽器バンド」のボーカル鈴華ゆう子氏によるイメージソングのPR動画をYouTube等に配信している。また、JR品川駅等での特急指定席券売機モニター等を活用したPRも実施している。

このようなことから、改善目標は達成されていると判断し、評価は今年度で終了とする。

なお、今回、まつりをリニューアルしたことは、勇気ある決断と評価できるが、リニューアル結果の検証を行い、場合によっては更なる見直しを検討することが望ましい。

※ 従来の測定方法では、観客数は前年度比約10万人増と見込まれる。

(3) 7年目評価

ア 斎場管理運営事務

斎場の管理運営事務については、新斎場の運営の検討に合わせた現斎場への民間活力活用の検討を改善目標として掲げているところである。

新斎場については、新斎場整備基本計画の中で、「現斎場と同様の従来方式（公設公営方式）を基本としますが、運営に当たっては、今後、より効率的かつ効果的な手法を採用すること」としたが、具体的な民間活力活用の手法の決定には至っていない。

火葬業務については、民間委託している自治体が比較的多いことが他市調査において判明していることから、新斎場と合わせて、現斎場の運営についても、メリットやデメリットを整理した上、効率的かつ効果的な手法の検討を進める必要がある。

このようなことから、継続管理とする。本年度をもって、行政評価が休止となることから、次年度は事務事業の担当課において指摘事項を踏まえた改善を行うこととし、あわせて、行政改革課でも指摘事項の管理を行う必要がある。

4 評価を終えての意見

本年度で行政評価が休止となることを踏まえ、本市の行政評価制度に対する各委員の意見等について、以下のとおり付記する。

なお、今後、行政評価を再開する際の参考にもしていただきたい。

(1) 水戸市の行政評価システムの評価できる点

- ・ テーマを設定すること、改善がなされるまで継続して評価を行うこと、委員が現地調査を行った上で評価原案を作成することなど、他の自治体

に見られない独自性があった。

- ・ 行政評価を通して、自発的な改善に向けた意識改革のきっかけとなっている。

(2) 水戸市の行政評価システムの見直すべき点

- ・ 1か月の集中審議であったことから、十分な評価を行うことができなかったものもあった。
- ・ イベントの評価においては、イベントの開催時期が異なることから、当該年度に既に実施済のものと未実施のものに分かれたため、上期と下期に分けて評価を行うことも検討すべきであった。

(3) 評価してみたの感想

- ・ 被評価者側に「成果意識の不足」、「保守的」、「コスト意識が希薄」などの課題があったが、委員会の指摘により確実に改善が図られた事務事業もあったことから、委員会の存在意義はあった。
- ・ 民間の事業は、利益が重視されるのに対し、行政の事業は、利益だけでなく多面的な評価が必要である。
- ・ 7年間の評価結果を報告書としてまとめて、継承するとともに、ホームページなどで公開するとよい。
- ・ 行政評価調書の作成や委員会の運営自体もコストがかかっているという意識を持つことも大切である。

(4) 包括外部監査との関係や今後の行政評価について

- ・ 包括外部監査は外部監査人が主体であるのに対して、行政評価は行政内部と外部有識者との共同作業であり、行政の自主性を発揮できる。ま

た、複数年度にわたり継続してチェックできるほか、小規模の事務事業単位でも評価できることから機動性もある。このようなことから、機を見て行政評価を復活して欲しい。

- ・ 包括外部監査は、監査の視点が財政的及び法的と定められており、また、法的位置付けも重い。一方、行政評価は、委員会の答申に法的拘束力がないことから、委員に多角的・大胆な提言の機会を与え、職員はリラックスして委員の意見を聞いて、業務を再考する機会となっている。このようなことから、将来の委員会は、委員による多角的な検討と、委員・総務部局・事業部局の意見交換という方向性に特化するべきである。
- ・ 包括外部監査の実施後も行政評価と同様に、自発的な改善へ向けた意識改革やモチベーションの維持につながることを期待する。

5 委員名簿（50音順）

委員長	吉田	勉
副委員長	川島	佑介
委員	伊藤	明美
委員	樋田	雅美
委員	水庭	清隆